



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## 新しい教育組織で教育の一層の充実を

歯学部長 宮崎 隆

学校法人では、各附属病院で勤務している教育職員を含めて、基本的に全教育職員が教育組織としての講座に所属する(担当教科名を明確にする)ことになり、昨年7月1日付けで新しい辞令を発令しました。担当教科名と主たる勤務先が明示されています。また、これにより、教育組織の講座と病院の診療科(組織)の関係が明確になりました。



歯学部においては、平成14年に臨床系講座ならびに歯科病院診療科(組織)の再編をした際に、講座とリンクした診療科に加えて、従来からの慣習としての半講座扱いの診療科や、講座に所属する部門としての診療科を新設し、その後診療科の分離や新設診療科が誕生したため、組織上新しいシステムに整合していない状況にありました。そこで、今回歯学部における教育の充実のために、あらためて教育組織の見直しを行い、7月の理事会で、新しい臨床系講座の定員表が承認されました。

講座の名称は歯科病院の診療科名と必ずしも一致していません。従来からの講座を以下に示します。歯科保存学講座、歯周病学講座、歯科補綴学講座、顎口腔疾患制御外科学講座、歯科矯正学講座、小児成育歯科学講座、高齢者歯科学講座、歯科放射線医学講座

一方、新しい講座は以下のとおりです。歯内治療学講座、地域連携歯科学講座、歯科麻酔科学講座、口腔リハビリテーション医学講座、総合診療歯科学講座、総合内科学講座

地域連携歯科学講座の担当する診療科は従来どおりの「総合歯科」、総合診療歯科学講座の担当する診療科は「総合診療歯科」になります。

医学部附属病院の歯科に勤務する教育職員については、地域連携歯科学を担当し、勤務先が各附属病院の歯科になります。これで、医学部と同様に教員組織と診療組織の関係がすっきりしましたし、各附属病院の施設を歯学教育にも有効活用する方向性が明確になりました。

また、大学全体で各学部にある教育推進室を束ねる「昭和大学教育推進室」を設置することにしましたので、基礎系講座に所属していますが、「歯科医学教育推進室」を他学部と整合するように、「歯学教育推進室」(歯学教育学担当)に名称変更しました。

このような教育組織で、教育に責任を持って臨むこととなります。現在、歯学教育が大きな変革期を迎え

ていることは明らかですが、私たちは本学の特徴であるチーム医療を中心に、歯学の専門性と特異性も生かした教育を推し進めていかなくてはなりません。限られた教育職員数で教育効果をあげていくためには、医学部で進めている大講座部門制の導入も今後検討する必要があると考えています。

## 教授就任挨拶

口腔病理学講座 美島 健二

私は、この度、立川哲彦教授の後任として本年10月1日付けにて昭和大学歯学部口腔病理学講座教授を担当させて頂くこととなりました美島健二と申します。



私は、平成3年に徳島大学歯学部を卒業後、奈良県立医科大学医学部の口腔外科に入局すると同時に病理学講座の大学院に入学しました。大学院在学時代は、全身病変の診断と悪性リンパ腫ならびに口腔癌の研究に従事しました。また、大学院卒業後は、病理学講座の助手として附属病院の診断業務を担当すると共に、平成10年から2年間米国NIH/NIDCRにて遺伝子治療や唾液腺疾患に関する研究を行いました。そして、このとき初めて疾患の病態解析から新規治療法の開発、ひいては臨床応用という、いわゆる“Bench to Clinic”という概念に触れることができました。この言葉は歯学部卒業当初、口腔外科に入局した私にとって大変理解しやすく、徳島大学歯学部、鶴見大学歯学部を経た現在でも、私の研究指針として益々新鮮味を帯びています。私が研究対象としております口腔乾燥症には、難治性疾患であるシェーグレン症候群に起因する重症例から、ストレスなどに起因する軽症例まで極めて多彩な症例が含まれます。私は、これまで本症の中でも特に唾液腺組織の消失が高度な症例に対して“Bench to Clinic”を具現化すべく、失われた腺組織を外部から補充する再生医療の確立を目指し研究を行ってまいりました。この度、医系総合大学である昭和大学で研究する機会を得られたことは大変幸運で、歯学部のみならず、医学部、薬学部などの関連各科とも積極的に連携して本症の治療法の開発にこれまで以上に従事していきたいと考えております。

現在、口腔病理学講座は12名のスタッフからなり、学部、大学院教育ならびに歯科病院の病理診断、病理解剖を担当しております。私自身は、まだまだ浅学の身ではありますが、医局員一同力をあわせて新たな教室作りに邁進する所存ですので、皆様のさらなる御指導、御鞭撻を賜りますよう何卒宜しく願い申し上げます。

## 昭和大学ホームカミングデーが開催 されました

歯学教育推進室 片岡 竜太

第4回昭和大学ホームカミングデーが10月9日(日)、旗の台50年記念館において、旗が丘祭・いぶき祭に合わせて開催されました。好天に恵まれ、富士吉田で全寮生活を過ごした医学部54回生、歯学部4回生、薬学部17回生と前学長の細山田先生の学年である卒後50年の医学部29回生が招待され、172名が参加しました。

式典は、昭和大学管弦楽団のオープニング演奏に始まり、片桐敬 学長、小口勝司理事長、飯島裕之歯学同窓会長からのご祝辞の後に、卒業後社会へ貢献したことに対して、ゴールデン表彰(卒後50年)、シルバー表彰(卒後25年)の授与が行われ、各学部の代表者に記念の盾が渡されました。招待クラスを代表して、高野 博靖先生(医学部29回生)がご挨拶されました。その後グリークラブの部員とともに、全員で校歌を斉唱後、応援指導部が卒業生へのエールと題して、演舞を披露してくれました。



この式典に引き続いて、理事長、学長、細山田前学長、各学部同窓会長による鏡開きから始まる懇親会が開かれました。今年は歯学部1回生玉置先生、3回生小原先生、4回生として大井手先生、倉林先生、代田先生、丸岡先生、5回生として上條先生、原木先生が実行委員を務められました。私は副実行委員長を務めさせていただきました。ホームカミングデーの1週間前に4大学交流会があり、岩手医大の三浦学部長が「北上川の鮭の遡上」の話がされました。北上川の河口は震災で壊滅的な打撃を受け、まだ復興にはほど遠いが、鮭は例年通り遡上してきたというお話でした。私はこの話を聞いた時、昨年のホームカミングデーを思い出しました。吉田の寮生活をともにした仲間と久しぶりに一日語りあかした後、なぜかまた頑張ろうという元気がわいてきたのを思い出しました。異なる地域、職場で様々な立場で働く同期生と久しぶりに話すことにより、昭和大学人としてのアイデンティティが深まり、さらに歯学部同期生が集うことで、自分の原点に立ち返ることができた人も少なくなかったと思います。今母校でチーム医療ができる医療人を育てるための学部連携教育・地域連携教育を推進していますが、学部・地域連携教育の原点は、昭和大学人のアイデンティティを深めることにあるのではないかと思います。今後このホームカミングデーがさら

に現役学生との交流も含め、学年を超えた昭和大学人のものになることを期待します。

最後に、田中一正委員長をはじめとする4学部実行委員会の皆様と早朝からご準備いただいた事務の皆様にご心から御礼を申し上げます。



## 歯学部進学相談会が開催されました

入試常任委員 山本 松男

去る9月11日(日)午後、昭和大学4号館において平成23年度歯学部進学相談会が開催されました。我が国の医療政策の一環として医師増歯科医師減の方向性が示され、国内外の経済事情の行方が必ずしも明るくないことなど、私たちの歯科医療を取り囲む環境は厳しい側面があります。しかし、東北大震災の現場でも歯や口腔の健康の重要性が再確認され、多くの人々から「もとめられる仕事」「感謝される仕事」「無くてはならぬ仕事」であることを伝える報道や雑誌記事などを多く目にするようになりました。また、科学の進歩は止まることを知らず、歯科医療・歯科医学も着実に進歩し、社会の変化の中で輝きを失っていません。今回の進学相談会では高校1年生から3年生を中心に34組60人の方が参加されましたが、その中で歯科矯正学講座の中納治久准教授に「最新の歯科矯正治療(昭和大学歯科矯正の特徴)」と題しての模擬授業をしていただきました。一般的な歯科矯正学の役割に始まり歯科矯正学講座で我が国初の導入となったワイヤーを用いない歯科矯正方“インビザライン”の紹介や教育用ロボットの開発秘話と将来性など、歯科医師・本学部を目指す生徒さんだけでなく参加された父兄の方や同席した教員にとっても大変興味深く、そして勇気づけられる内容でありました。将来の歯科医療を牽引する学生さんが多数入学してくることを願ってやみません。



## 第9回4大学歯学部交流会が開催されました

総合診療歯科学講座 長谷川 篤司

9月30日(金)に第9回4大学歯学部交流会が開催されました。例年、本学歯学部に加え、北海道医療大学歯学部、岩手医科大学歯学部、福岡歯科大学の教員と教務事務職員が一堂に会して幅広く情報交換をする交流会ですが、本年度は本学が主幹校として旗の台校舎での開催となりました。本年度の会議テーマは「診療参加型臨床実習の取り組み状況と今後の展望について」ということで、本学からは臨床診療各科の教授および臨床実習担当者合計26名の教員が参加しました。



本学、宮崎隆歯学部長の開会あいさつの後、各大学の臨床実習担当者が上記テーマで30分ずつ講演しました。本学からは総合診療歯科学長長谷川篤司が、最近3年間の本学臨床実習に関連する取り組みと変遷について説明しました。

各大学の講演に対して活発な質疑が交わされ、最後に司会の山本松男歯周病学教授が臨床実習関連のトピックス紹介と全体討議の総括をして約4時間の会議が終了しました。

会議後の懇親会も、井上美津子教育委員長の司会で、各大学の事情や対応についてのさらに活発で有意義な情報交換会となりました。赤堀部長をはじめとする教務部の周到な準備により交流会は盛会のうちに無事終了致しました。

## 行事予定

広報委員長 井上 富雄

11月 6日(日):推薦・編入入試  
 11月12日(土), 19日(土):D4学部連携PBL  
 11月15日(火):創立記念日  
 12月 3日(土):昭和歯学会例会  
 12月8日(木), 16日(金), 20日(火):D3学部連携PBL  
 12月10日(土):大学院I期入試

## 診療統計(平成23年9月分)

医事課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	17,580	724.9	724.9	707.5
入院患者	515	19.1	19.1	13.9

## 初年次体験実習が実施されました

小児成育歯科学講座 島田 幸恵

初年次体験実習が、平成23年9月12日～9月29日の予定で実施されました。総勢574名の学生が4学部合同実習(病院実習, 福祉施設・支援学校への施設実習, 救急救命実習)・学部別実習を行いました。今年は台風本州直撃で一部実習を中止し9月30日に振替実施となり、また富士吉田で足止め、新宿で一夜を過ごされた教職員の方も多数おられ大変御迷惑かけてしまいましたことをこの場でお詫び申し上げます。

救急救命実習では普通救急救命講習修了証が交付されます。歯学部の学部実習では、「将来、歯科医師となるための専門科目の学習を開始するにあたり目標を持ち学習意欲を高めるために歯科医院における



歯科医師の役割と歯科医院スタッフ、患者とのコミュニケーションの重要性を体験し、人間性豊かで優秀な歯科医師になる目的意識をもつ」という目標のもと、甲府・富士吉田市近隣の歯科医院見学実習を行いました。実習は3日間を1クールとし、1日目に医療人コミュニケーション、歯科ユニットの構造などの講義、歯科医院を想定した患者導入、手洗い、エプロン着脱のロールプレイ実習、2日目に歯科医院見学実習、3日目は実習報告会・表彰式という日程で行いました。

### 歯科医院見学報告



実際に体験したので活発な討議があり、歯科医療の具体像やチーム医療の重要性を学び、また歯科の専門学習意欲が向上したという感想が多くありました。歯科医療を目指す

学生にとって貴重な体験ができたと思います。最後になりましたが、初年次体験実習実施にあたり、ご協力いただいた歯科医院の方々、教員・教務の方々にこの場を借りて深く御礼申し上げます。

## 日本学生支援機構の奨学金貸与について

歯学部学生部長 上條 竜太郎

独立行政法人日本学生支援機構は、大学生並びに大学院生を対象とした奨学金を貸与しています。奨学金は大きく分けて第一種(無利息)と第二種(年利3%を上限とする利息付き)に分かれますが、本年度歯学部は、第一種5名(1年次:3名, 2年次以上:2名), 第二種6名(1年次:3名, 2年次以上:3名)が採用となりました。また、大学院歯学研究科では、第一種11名(1年次:8名, 2年次以上:2名)が採用となりました。奨学生の採用は学力基準と家計基準に基づいて判断されます。詳細は学生部にお問い合わせください。

## 第33回米国骨代謝学会で発表しました

大学院4年(口腔生化学専攻) 宮本 阿礼

去る9月16から20日まで、米国のサンディエゴで行われた ASBMR (American Society for Bone and Mineral Research) 2011 Annual Meeting に参加して参りました。

サンディエゴは海に面しており、治安もよくとても過ごしやすい場所でした。本学会は、骨代謝関係の学会では最も大きく、1,500を超える演題が発表され、参加者も一万人を超えます。ポスター会場もすべての演題を見て回るには不可能なほどの規模でした。私は免疫システムを利用して骨粗鬆症を治療するという研究内容を発表し、多くの方が興味を持ってくださいました。そして、最後に握手しながら今後も頑張ってくださいという言葉をかけていただきました。また以前、口腔生化学講座の大学院生で、現在コーネル大学で研究をされている趙 宝紅(ジャオバオホン)先生にもお会いし、米国での生活や研究の苦労などについて貴重なお話を聞くことができました。この学会に参加したことで自分の視野が広がったように感じるとともに、自分の未熟さを痛感いたしました。このような素晴らしい機会を与えてくださった口腔生化学教室の上條竜太郎先生と高見正道先生にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。



## 受賞

広報委員長 井上 富雄

・相澤 怜(歯周病学専攻 大学院3年)、小野 美樹(歯科矯正学専攻 大学院4年):9月30日~10月2日に開催された「第53回歯科基礎医学会学術大会」で優秀ポスター発表賞を受賞しました。



・塚崎 雅之(歯学部5年):9月30日~10月2日に開催された「第53回歯科基礎医学会学術大会」で学生発表賞を受賞しました。

・宮本 阿礼(口腔生化学専攻 大学院4年):9月4日~8日に開催された「2nd Asia-Pacific Osteoporosis and Bone Meeting」で International Osteoporosis Foundation Young Investigator Award を受賞しました。



## 第14回国際補綴学会で発表しました

歯科補綴学講座 石浦 雄一

9月8日から12日までハワイ島で開催された第14回国際補綴歯科学会に参加、発表をしてまいりました。本学会は1985年から2年ごとに開催されており、日本補綴歯科学会やアメリカ補綴歯科学士会と言った各国を代表する補綴系学会の集合体という感じの学会です。歯科補綴に関する幅広い内容の発表が盛んに行われました。CAD/CAM やインプラントの話題も多く取り上げられていました。本学からは高齢者歯科学講座と歯科補綴学講座からそれぞれ4名ずつ参加し発表も行ってまいりました。また、熱心な兼任講師の先生方も出席されていました。会場では世界各国からの参加者があちらこちらで質疑応答を繰り広げていました。場所柄、ドレスコードもハワイらしい格好となっており、他の学会の雰囲気とは違ったリラックスした感じでした。また、夜には参加者の交流を図るパーティーも開催されました。パーティーの参加者は自国の伝統的衣装を着ることも許されており、浴衣やチマ



チヨゴリも見受けられました。高名な先生も気さくに話しかけてきてくれたりするので、非常に士気の上がるイベントでした。

## 昇任・採用

広報委員長 井上 富雄

諸橋 富夫 准教授(歯科薬理学)  
佐藤 大輔 助教(歯科補綴学)

## 認定医取得

広報委員長 井上 富雄

日本歯周病学会認定医:  
歯周病学講座 宮澤 康, 鈴木 奈緒子

## 編集後記

口腔生理学講座 中山 希世美

朝夕の風が随分冷たくなり、気がつけば、今年もあと2ヶ月となってしまいました。日々の気温変化が激しく、体調管理が難しい季節です。体調を崩されている方も多いようですので、皆様、ご自愛下さいませ。末筆ではございますが、今月もお忙しい中、原稿を執筆して頂いた皆様に心より感謝申し上げます。